

国立研究開発法人科学技術振興機構  
「科学と社会」推進部

未来共創イノベーション活動支援  
平成 30 年度採択企画最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 共に考えるゲノム編集の未来

2. 提案機関 公立大学法人大阪府立大学

3. 企画の概要

ゲノム編集技術は飛躍的に進歩している遺伝子改変技術で農作物の品種改良や医療面での利用が期待されている。一方、この技術の秘める可能性が大きいが故に、その社会実装を不安視する声もありステークホルダー間での議論に基づくルール作りが求められる。

本企画ではコンテンツ作成などを含む多様な科学技術コミュニケーションを実践し、市民が情報に接し、意見を表明できる場を創出する。出された意見は丁寧に汲み上げ、社会に発信するとともに、意見に基づき議論を深める。ステークホルダー間で協働し、合意に基づく社会実装への提案をおこない、現実的なルール作りとその運用に貢献する。ネットワークは支援中に拡大し、活動を社会に根付かせる。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は達成され、ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

活動当初の予定を上回り、3年間にG（情報の提供）、T（情報に対する意見の聴取）、A（意見に基づく行動・議論）、C（議論に基づく結論・合意から伝達・対話まで）に関わる活動を46回実施し、その過程を通じて様々なステークホルダーとの連携を深めネットワークを拡大した。ゲノム編集について情報を共有し対話をするための概念枠組、具体的仕組み、ツール、ネットワーク構築が出来たことは、本企画の成果として評価できる。また、46回のイベントの中で得られた各立場の主体の懸念や期待についてのデータもアウトプットとして位置づけられ評価できる。

しなしながら、ゲノム編集は将来にわたって重要なテーマであり厚生労働省の取扱ルール（届出）決定により完結するわけではないため、この問題に関する市民対話（消費者の立場にたったより良いものにしていくための働きかけ）の継続や、他のELSI課題へのGTACプロセスの適用などにも積極的に取り組んで頂きたい。また、連携する関係機関が組織的参画というより、個人の熱意やスキルに頼るところが多く、やや脆弱な体制とも見受けられ、参画主体の拡大や充実、機能分担、総合的な活動ガバナンスなどに関しても検討頂きたい。今後の活動の更なる発展、他分野との横串（横断）にも期待したい。 以上